

いで藩に仕へた。

ウチイヘナガヨシ 氏家長吉 通稱久兵衛。内蔵允の二子。大坂冬陣に祿三百八十石で従軍し、町口に槍功があり、後八百石に増した。寛永十五年歿、子孫増五郎に至つて、祿三の一中早世し家断絶した。

ウチイヘモリウチ 氏家盛氏 通稱鐵之助。三郎左衛門・内蔵助。寶永六年祖父伊兵衛の後を受けて、四百石を領し、表小將・世子附御側小將・御使番に歴任し、享保十年百五十石を加へ、元文三年十二月廿八日三十九歳を以て歿した。子増五郎幼少で祿三の一を嗣ぎ、寛保三年早世して絶炊した。

ウチウラ 内浦 能登の東方一帯の海岸地方を指す總稱。

ウチカケキゾメ 禰禰藩初 女兒七歳に達した時、初めて禰禰を着ける祝儀をいふ。この際衣服の付紐を廢し帯を用ひるが故に、紐落しともいうた。

ウチカタシンボ 内方新保 石川郡山島郷に屬する部落。

ウチカハ 内川 石川郡に在る。源を三輪山に發し、東南から来る一溪流を併せ、後谷を経て北流し、堂に至り、兜山・倉岳の間を通過し、山川の南にて平澤川を合はせ、末に至つて犀川に入る。流程二〇軒。

ウチカハエンメイシ 内川淵名誌 一册。

撰者不詳。石川郡内川の上流から犀川に合流するまでの淵の名を記したものである。

ウチクビ 打首 ↓ハネクビ 刎首。

ウチコシ 打越 江沼郡能美郷に屬する部落。

ウチコシ 打越 能美郡輕海郷に屬する部落。

ウチコシ 打越 鳳至郡三井郷に屬する部落。

ウチコシ 打越 鳳至郡谷内の内の小字。

ウチコシ 打越 鳳至郡谷内の内の小字。

ウチサクジブギヨウ 内作事奉行 金澤城内の營繕の事を掌る職。寛文中不破七兵衛・前田瀬兵衛が之に任じ、延寶五年服部與右衛門・前波久兵衛・和多田八郎兵衛・齋藤左太郎・鈴木又兵衛・渡邊市兵衛が命ぜられ、爾後相繼いだが、安永四年八月に之を廢した。然るに八年四月笠間源太兵衛・同八月歸山武兵衛が復之に任じ、員數漸く増して前の如く六人となつた。文化元年十一月省略につき之を廢し、その事務は御作事奉行から兼帶し、七年再び金谷佐太夫・加須屋團藏・角尾孫兵衛・井上清左衛門・熊谷少九郎・中村武左衛門・關彌左衛門が之に任じた。是より先文化五年五月から七年十二月まで御造營方内作事奉行があつたが、それは金澤城火災後の建築を掌る臨時のものであつたのである。

ウチソウガマヘ 内惣構 金澤城外金谷門邊から金谷出丸を巡り、不開門前を経て近江町・新町の後を繞り、母衣町から淺野川へ流通するものと、別に東は奥村氏の第後より鑿り初め、味噌蔵町から枯木橋へ疏通し、母衣町に至り淺野川へ通ずる堀を呼び、慶長四年の構築である。金谷出丸の外廻は、もと溜堀になつてゐたが、明治八年尾山神社の神門造營の時土居を崩し、惣構を悉く埋めた爲、今は殆ど舊形を見ぬ。

ウチタカマツ 内高松 河北郡金津庄に屬する部落。この地能登に入る要路に當り、古來戰爭の巷となつたことが多い。

ウチタカマツガタ 内高松湯 河北郡内高松にもと湯があつた。延寶の書上に、内高松の湯に住む鯉・鮒三寸許以上のものは片眼であるといひ、寶曆の調書には、内高松の不湖は年々飛砂によつて埋まり、淺所には蓮及び眞蔕を生ずるとし、文化の調書には、内高松の不湖長百七十三間幅百十五間程とある。不湖は古語のふけと同じ。

ウチダマゴサブロウ 内田孫三郎 ↓ヲカモトウダニウ 岡本右太夫。

ウチダマサカセ 内田政風 石川縣最初の縣令である。鹿兒島藩鳴津家の臣内田仲藏政爲の二男で、文化十二年十二月二日に生まれ、兄仲左衛門政徳の猶子として家督を襲ぎ、後江戸留守居添役を勤めた。文久三年嶋津久光に從つて上京し、六月九日物奉行大阪詰金方となり、同月廿六日京都留守居役に轉じ、慶應元年五月十一日側役格留守居勤勝手掛を命ぜられ、六月廿八日勝手掛側用人に轉じた。明治二年三月七日參政を命ぜられて公議人となり、三年三月廿七日少辨に任ぜられ、從五位に叙し、八月十五日金澤縣大參事、十一月廿日金澤縣參事、五年八月廿七日石川縣權令に任ぜられ、六年十二月廿二日石川縣令に昇進し、八年三月三十一日依願石川縣令を免ぜられた。九年三月政風鳴津久光に隨行して郷里に歸り、七月十五日嶋津忠義の家令を命ぜられて在京九年に及んだが、十七年四月辭職し、後東京第十五國立華族銀行世話役に從事すること數年であつた。政風の人と爲りは

實直にして勇氣あり、また文事に志厚く、武技をも兼ねて居た。

ウチツカヒヨリキ 内仕與力 寄親附與力にして、平生藩用を勤めることなく、その寄親の家事に従ふ者をいふ。

ウチテダイ 内手代 ↓テダイ 手代。

ウチハシテイ 内橋亭 金澤兼六内内に在つた四亭の一つで、昔は蓮池馬場の附近に建てられてゐたが、明治以後霞ヶ池西岸の水中に移した。

ウチヒスミ 内日角 河北郡金津庄に屬する部落。

ウチホ 内保 鳳至郡橋比庄に屬する部落。惣持寺藏永和四年四月廿七日沙彌芝野寄進狀に、『能登國橋比庄うちほむらの中ほりこし云々』とあるもので、堀腰は今獨立の部落であるが、當時内保の一部であつたのであらう。

ウチヤ 内屋 鳳至郡三井郷に屬する部落。

ウチヤマ 内山 珠洲郡若山庄に屬する部落。村名由来書に、『此村往還道より山之谷内に有之村に付、内山村と唱申由申傳候。』とある。

ウチヤマカクジュン 内山覺順 稻宣義の季子で、内山覺仲に養はれたものである。初め二百石を領し、天明元年五十石、二年又五十石を加へ、三年五月歿した。覺順諱は義泰、號は藍浦。寶曆八年五月草木辨疑四卷を著した。

ウチヤマカクテウ 内山覺仲 初名覺順。最も本草の學に精しく、稻宣義の高弟であつた。初め父三清の俸十人扶持を襲いだが、享保十九年幕府が宣義の庶物類聚を補修せんとした時に、祿二百石を領してその業を助け、